

カレッジ里山 花実の森 活動報告(2018年10月-2) 第103号

活動日 2018年 10月 28日(日)	時間 9:30~12:00	天候 (晴)	記録者 (菅田)			
公募参加者 7家族 21名 スタッフ 10名	<p>(スタッフ) 磯野彰夫 菅田忠志 松本治美 俵貴志子 橋野美子 山田喜義 田路義弘 塩ノ谷年子 井口久美子 片岡隆夫</p> <p>(本部:才上理事)</p>					
今回実施した 内容	<p>親子カブトムシ生育観察会 2018年第3回 (新生幼虫と秋の里山観察)</p> <p>親子自然体験型環境学習 2018年度『親子カブトムシ生育観察会』、年間を通して里山に棲むカブトムシの生育観察をしながら、里山を知り学ぶイベント。今回は年間3回シリーズの3回目。年間を通じて参加してもらった子どもたちに、【里山に棲むカブトムシの一生】のおさらい学習をする中で、里山の昔と今の里山の役割の変化なども学んでもらった。秋の里山観察では、この夏に短い一生を終えた成虫たちが残した卵から孵化し、しっかり2歳、3歳幼虫の育っている様子をそつと掘り出し観察した。後半では集めてきた小枝や木の葉を使っての「クラフトづくり」として、【小枝の壁掛け飾り】を楽しんだ。</p>					
写真記録	  					
受付開始	<p>オリエンテーションとして、里山に棲むカブトムシの話や、里山の“昔と今”的話、10月の2度の大型台風の被害が大きかったことなどの説明をし、観察会を開始。</p>					
						
 <p>この夏に成虫が生み残していく卵から孵化した幼虫も、ぐんぐん大きくなつて、2歳・3歳幼虫に育つてゐるところをそつと掘り出して観察してみよう。 早くも芽を出した今年のドングリも植えておくんだよ。 来年の子どもたちが植樹してくれるからね。</p>						



幼虫観察後は、こつこつと作り貯めておいた、小枝のチップと馬糞堆肥を混ぜて作った“特製腐葉土”を、袋に入れて里山内の手づくり観察小屋に運んでもらった。後日さらに腐葉土を増やし、4月に冬眠明けの3歳幼虫を次年度観察会に来てくれる子どもたちに運んでもらおう。



去年の子どもたちにポットに植えてもらったクヌギのドングリがしっかり芽をだし、育ってきたので、その苗木を植樹。大きくなるようしっかり植えるんだよ。



帰り道は、秋の里山観察をしながら、小枝や木の葉・木の実を探りながら下山。この後のクラフトづくりに使う。



それでは今から持ち帰ってきた小枝や木の葉で“壁掛け飾り”をつくるよ～。段ボールを使っていろいろ工夫しながら、かわいい壁掛けや卓上飾りに仕上げてね。



こどもたちの発想はなかなかユニークです。楽しそうなのが期待できそう。



いや～ なかなか楽しそうな
作品がたくさんできました。



お家でも家族で新しい発想で
おもしろい飾りに挑戦してくだ
さい。



みなさんお疲れ様でした。

“花実の森”の里山に3回来てもらって、ここに棲むカブトムシたちの観察をしながら、自然体験してもらいましたが如何でしたか？初めて見たり触ったりしたこと多かったと思います。この体験を生かして、これから多くの生きものたちと触れ合い、大切にしていってください。

お父さん、お母さんもお疲れ様でした。これを機にこれからも子どもさんたちとどんどん自然の中に入っていろいろな体験をさせてあげてください。

これで 2018 年度 3 回シリーズの【親子カブトムシ成育観察会】を終わります。スタッフのみんなもご苦労様でした。

この事業は、平成 30 年度子どもゆめ基金の活動助成金で実施しました。